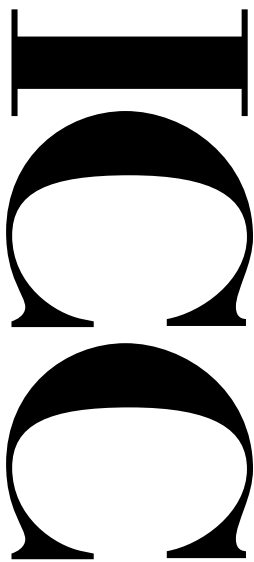


公益財団法人 国立京都国際会館 広報誌



Kyoto

2016
Autumn

ICC Kyoto
50th
Beyond 50th Anniversary
～ 50年の歴史を誇りに ～



Kyoto International Conference Center



日本人が日本人であるための「和食」の復権と将来にわたる継続を目指して



MIHO MUSEUM 館長
一般社団法人
和食文化国民会議 会長

熊倉 功夫 氏
Isao Kumakura

Profile 1943年東京生まれ。東京教育大学卒業。文学博士。筑波大学教授、国立民族学博物館教授、林原美術館館長、静岡文化芸術大学学長などを歴任。
著書に『日本料理の歴史』、『茶の湯といけばな』、『後水尾天皇』、『文化としてのマナー』、『現代語訳 南方録』、『茶の湯日和 うんちくに遊ぶ』、『日本人のこころの言葉 千利休』等。

インタビュアー
木下 博夫 *Hiroo Kinoshita*

Profile 1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長等を経て、2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

日本の食文化への危機感が登録を後押し

木下 博夫館長(以下、木下) 和食がユネスコの無形文化遺産に登録されましたが、登録にいたる背景や理由などをお話してください。

熊倉 功夫氏(以下、熊倉) 和食は、2013年12月4日、アゼルバイジャンで開催されたユネスコの政府間委員会の会議にて、「和食-日本人の伝統的な食文化」として登録されました。登録決定には、通常、重要無形文化財などの日本の国内法に登録されてから文化庁の申請リストに載るというプロセスを踏みます。和食の場合は、そうした手続きを踏まずに世界遺産登録にいたった稀なケース。その背景には、2011年3月に発生した東日本大震災の風評被害で揺らいだ日本の食に対する信頼性を早急に回復させたい。そんな、省庁を超えた決意が込められていたように思います。同時に、和食という日本固有の食文化が危機的な状況にあるという認識が、共通概念として存在していたからではないでしょうか。

木下 熊倉さんは著書のなかで、日本の一般家庭の食卓が和食の原点であると書いておられます。それが崩壊しつつあることを、無形文化遺産登録の運動を契機に改めて気づかされたということですね。

熊倉 そう思います。日本人は古来より、異文化を上手に自国の文化に取り込むことが得意です。それが、日本が近代以降急速に発展したひとつの要因であるのは間違いありません。ただそれは、長い歴史のなかで育んできた自国の伝統を簡単に捨ててしまうという側面と表裏一体でもあるのです。古今東西、ヨーロッパでもアメリカでも、アジア諸国においても、特に、食文化に対してはおしなべて保守的。なのに、日本人はあっさり自分たちの味覚を切り替えることができる(笑)。近代以降、日本人ほど衣食住が大きく変わって、そのことに対して違和感を感じない国民はないと思いますよ。

和食の原点「家庭の食卓」の再生を

木下 日本の食文化には、おもてなしにしても、器の盛りつけ方、食材の豊富さ各々に、日本人独特の感性が反映されています。それを再認識する必要があると感じますね。

熊倉 日本列島は南北に細長く、北は冬が長く寒い北海道から亜熱帯の沖縄まで多種多様な自然環境に恵まれています。私たち日本人は、そうした風土のなかで豊かな食文化を育んできました。野山には神々が宿っているという考え方があり、飲食によってその恵みをいただいているという感覚が培われてきたのも、この自然の恩恵を受けてきたからです。また、個人それぞれが自分自身のお箸を持っていることも、日本人独特の感性によるもの。これらすべてが、和食のなかに備わっています。つまり、独自の言語である日本語も同じで、失ってしまうと日本人としてのよりどころをなくしてしまうことにつながるのです。ところが今、それぞれの地域で受継がれてきた食文化は、一般家庭の食卓からは消滅しつつあります。そこで、私たち和食文化国民会議では、11月24日を「和食の日」に設定。日本全国の小中学校を対象に和食での給食を推奨し、「いりこだし」や「あごだし」など、それぞれの地域で使われている天然だしで汁物をつくっていただく

などの活動を行っています。これまで、のべ2,000校あまり約50万人の生徒たちが参加してくれました。彼らのような若い世代が和食の味を舌で覚えてもらうことで、家族の食卓に伝統的な味覚というものをもう一度再生させようという試みをしているところです。

木下 日本文化の再評価をする際、五感で大事にしてきた日本人の生活において、家庭での和食の復活はとりわけ欠かせないと。

熊倉 料理の天才・魯山人は、「どんな素晴らしい店の料理でも、家庭の食にはかなわない」と言っています。食べる人の顔をひとり一人思い浮かべながらつくるから、というのがその理由です。このように、和食は家族の絆を深めるとともに、何より、和洋中何にでも合うご飯を中心とし、一汁三菜を基本とした栄養バランスに優れた世界に誇れる食文化。これから、2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、海外から日本を訪問しにこられる方々が増えると思われ、何度でも来日される方も見込まれるなか、「日本の家庭料理を味わいたい」という人々にも喜んでいただけるような食環境を作り上げたいですね。

和食の国際化で日本の魅力を復活

木下 私たち国立京都国際会館がお役に立てるとすれば、和食における食と健康、あるいは食の安全といったテーマでの学術会議や講演会を開催していきたいですね。
熊倉 和食への認識に対する国際的な広がりを考えれば、国立京都国際会館の果たす役割は非常に重要です。現在、世界中で和食は大



MIHO MUSEUM

きなブームとなっていて、海外の日本料理店は数年前の2倍の89,000店舗を超えるそうです。そこで、特に強調したいのは、和食が研究的裏付けもある大変ヘルシーな料理であるということ。ですから例えば、国立京都国際会館で開催される会議で出されるお弁当をお出しする際には、使われている食材のどの成分が身体によいのか一言添えていただきたいですね。さらに、それぞれの料理にどのような故事来歴があるのかといった由縁も説明すると、日本人の感性を理解してもらえそうです。まさに、日本の古都・京都に建設された日本を代表する国際会議場ですから、京料理を上手に生かして和食の良さをアピールしていただきたいですね。

木下 食文化のベースの認識を深めなければなりませんね。

熊倉 私たち日本人が何かアクションを起こす際には、後醍醐天皇の建武の中興しかり、明治維新しかり、過去の模範となる時代に立ち返ってきました。和食も、よるべき大切な伝統文化のひとつ。和食の保護継承は家族の絆の復活、そして、日本の自然や豊かな食材、食文化を守ることにもつながるのです。

木下 そのために、食文化の背景にある住宅様式、衣裳等との関連づけを認識する活動に私たち国立京都国際会館がお手伝いできればと願っています。

(文中敬称略)



特集 [成熟編] Maturation period

The 50-year History of the ICC Kyoto

2000年代を迎え、大型化・多様化する国際会議を数々開催してきた国立京都国際会館。様々なニーズに応えられる国際会議場を目指し、ソフト面とハード面の充実を図った「成熟」の軌跡を、開館50周年を記念した特

集の第3弾としてご紹介します。

Column

情報化対応の充実と連携がもたらした会議の成功

「第3回世界水フォーラム」は、従来型の会議、理念とは全く異なるものを目指した筋骨きが想定できない新しいタイプの会議でした。参加者を見ても、皇室、王室から政府、政治家、学者、企業、NGO関係者まで非常に多岐にわたっており、幅広い受入れ態勢を整える必要がありました。

また、メディアセンターの初使用となった本会議では、会議の運営にデジタルシステムがフル稼働し、重要な役割を担いました。会館スタッフも水フォーラム事務局と一体となって調整・連絡にあたり、大規模な国際会議を成功に導くことができ、時代の流れに即した会議のあり方をこの世界水フォーラムを通して垣間見ることが出来ました。

▶▶2001 (平成13年)

地下鉄連絡通路歩廊完成

2001年2月、地下鉄出入口より会館の正面玄関に至る通路において、屋根付きの歩廊設置工事がスタート。同年8月に完成しました。

地下鉄「国際会館」駅から正面エントランスまで四季を通じて、快適にアクセスできるようになりました。



▶▶2003 (平成15年)

メディアセンター設置

本館4階にメディアセンターを開設し、音響・音声・映像すべてをフルデジタル、ハイビジョン化。各会議場に600本もの光ファイバー網を整備することで、オンデマンドによる配信やインターネット放映など多様化する会議のニーズへの対応が可能となりました。



コージェネレーション設備完成

ガスエンジンの冷却水から回収した高温水や蒸気を空調や給湯に利用する「コージェネレーションシステム」を導入。環境にやさしい設備に整えました。

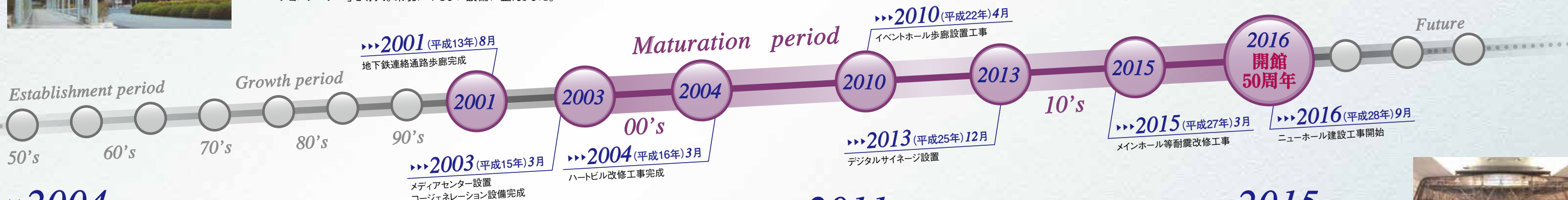


▶▶2003 (平成15年) 「第3回世界水フォーラム」

「水をめぐる紛争」「水不足」「水質汚濁」「洪水」などの水に関する多様な問題を解決するため、「国連水の日」(3月22日)を含む3月16日～23日の8日間にわたって開催された「第3回世界水フォーラム」。アジアで初めて京都を中心に滋賀、大阪の琵琶湖・淀川流域を舞台に水の専門家や政府、NGO、企業など、“水”に関わるさまざまなステークホルダーが一堂に会し、182カ国・地域から2万4060人の参加を得て行われました。

開会式と閉会式には、皇太子同妃両殿下がご臨席。第3回世界水フォーラム運営委員会の橋本龍太郎会長、世界水会議会長など各国の要人が参加したほか、フランスのシラク大統領のビデオメッセージも上映。本会議のテーマ数は38、分科会の開催も350あまりに達するなど、極めて多岐にわたる国際会議となりました。

最終的には、「世界水行動報告書」「閣僚宣言」「水行動集」「暫定フォーラム声明文」を発表し、成功裡に終了しました。



▶▶2004 (平成16年)

「第1回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」

2004年に、「第1回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」が開催され、ノーベル賞受賞者を含む科学者、政治家、産業界のリーダーなどが出席し、活発な意見交換が行われました。

以後、毎年当館にて開催されています。



▶▶2005 (平成17年) 「ASEM第7回外相会合」

アジアと欧州の相互理解を深めるため、首脳・閣僚レベルの会合「ASEM外相会合」の第7回目の会議が開かれました。アジア13カ国、欧州25カ国とEUの外相が参加。双方の連携強化が確認されるとともに、多数の関連会合も実施されました。



▶▶2011 (平成23年) 「第23回国際血栓止血学会」

7月23日～28日の6日間、「第23回国際血栓止血学会」(ISTH2011)が開催されました。心筋梗塞、脳血栓等の血栓症、さらに血友病のような出血性疾患の病態、診断、予防、治療などについて発表、討論する本会議では、世界の80の国、地域から5,000名を超える参加がありました。

本会議は、東日本大震災の約4カ月後に行われた国際会議にもかかわらず成功裡に開催されたことで、日本の安全性を海外に発信するという大きな役割を果たし、国際会議の情報発信力が再認識されました。

▶▶2013 (平成25年) デジタルサイネージ設置

太陽光を電源としたディスプレイで画像や映像を配信する広告媒体「デジタルサイネージ」を、地下鉄「国際会館」駅地下連絡通路に設置。会館への来場者に、ウェルカムメッセージや催し案内など幅広い情報を随時提供できるようになりました。



▶▶2015 (平成27年)

メインホール等耐震改修工事

2015年3月、大規模な改修工事が完了。全館内の耐震補強を敢行し、照明設備のLED化や外壁・内装の改修も行われました。メインホールでは、照明、調光、スクリーンの各設備が耐震仕様となり、大会議場にふさわしい安全、快適な空間を実現する事ができました。



▶▶2015 (平成27年)

「東アジア地域包括的経済連携第8回会合」

環太平洋経済連携協定(TPP)と並ぶ大型自由貿易協定、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)の8回目となる交渉会合が国内外約700名の参加で開催。経済や貿易分野に関わる、高級実務者レベルの貿易交渉委員会会合と専門家会合が行われました。

Topics

国立京都国際会館 開催会議

開催報告

第1回世界麻環境フォーラムKYOTO2016

～HEMP Lifeline to the Future～

2016年7月2日(土)



さる7月2日、「第1回世界麻環境フォーラムKYOTO2016」が開催されました。

これは、国際ネットワーク「International Hemp Environmental Forum」のキックオフイベントとして実施されたもので、日本および、世界

の麻農家や麻のプロフェッショナルが集結。「環境により良い麻農業」「麻製品による代替と普及」「麻による環境問題解決」に焦点を当て、具体的なプロジェクトの創設を目指し、パネルディスカッションなどが行われました。

当日は、農業ジャーナリストでフリーアナウンサーでもある小谷あゆみ氏が、総合司会を務めて進行。第1部の日本フォーラムは「日本の麻の歴史と伝統、現状と展望」、第2部の国際シンポジウムは「世界の麻産業の現状と展望」、第3部の世界麻環境フォーラムは「HEMP Lifeline to the Future」と、研究者や生産者など麻産業関連の専門家による熱い議論が交わされました。

そして、最終の第4部では、門川大作京都市長や安倍昭恵首相夫人、田中安比呂賀茂別雷神社(上賀茂神社)宮司がパネリストとなって統括座談会を実施。麻における日本の伝統の知恵を世界に紹介し、目指すべき未来環境についてディスカッションする世界初のイベントが、活発な議論のもと終了しました。



開催報告

国際分析心理学会第20回大会 (IAAP 2016 Kyoto)

2016年8月28日(日)～9月2日(金)

国際分析心理学会(International Association for Analytical Psychology、以下IAAP)は、スイスの精神医学者・心理学者カール・グスタフ・ユングが創始した分析心理学を専門とするユング派分析家の国際資格をもつ者たちの団体で、3年ごとに大会が開催されます。今回はアジアで初めての開催で、同学会の副会長でもある京都大学の河合俊雄教授がプログラム委員長を務め、8月28日から9月2日の6日間

にわたり世界47カ国、750名以上の参加者をえて、約200の研究発表がなされました。

今大会のテーマは、「過渡期におけるアニマ・

ムンディ:文化的、臨臨床的、専門的挑戦」。アニマ・ムンディは「世界の魂」と訳され、世界中の生きとし生けるもの全てのつながりを表現する言葉です。大会では、さまざまな領域から多角的なアプローチでアニマ・ムンディについて検討が行われ、午前中の全体講演や、午後に同時間帯で並列して開催された研究発表分科会・ポスターセッションなど、さまざまなプログラムが行われました。

また、期間中は日本の芸術や伝統文化を紹介するイベントも多数開催。プログラム委員長の河合教授がインタビュアーとなり、日本の世界的指揮者・佐渡裕氏にお話をうかがう「佐渡裕さんにきく河合隼雄の思い出 with スーパーキッズ・オーケストラ ミニコンサート」などが行われ、日本の文化発信地としての京都を大いにアピールする場となりました。



Pick up

第32回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ

2016年11月10日(木)～12日(土)

科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に著しく貢献した人々を讃える国際賞である「京都賞」。公益財団法人稲盛財団によって運営されており、2016年の今年で32回目となります。今回の京都賞では、先端技術部門で金出武雄博士、基礎科学部門で本庶佑博士、思想・芸術部門でマーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士がそれぞれ受賞されます。10日に授賞式が行われた後、11日と12日の2日間、受賞を記念した3名の方の記念講演会、記念ワークショップが開催されます。

大学ICT推進協議会 2016年度年次大会

2016年12月14日(水)～16日(金)

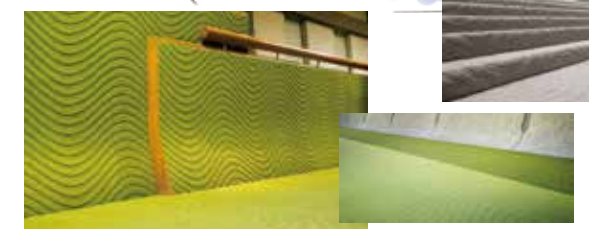
情報通信技術(ICT)の進歩が著しい昨今、大学もそうした状況に対する確かな対応が求められています。そうしたなか、大学ICT推進協議会では、会員や国内の高等教育・学術研究機関において、各種専門的情報の提供・交換を行う事を目的とした年次大会を定期的に行っています。2016年度は12月14日から16日までの3日間にわたり開催。国内外の招待講師による基調講演や、2015年度年次大会で発表された優秀論文賞やポスター賞の表彰が行われる予定です。

会館

裏ばなし

第3話

「館内を彩る 流麗な文様」



会館を訪れた際に目にとまるのがメインラウンジに向かって色鮮やかに敷かれた緑の絨毯です。この絨毯は京都に在る会館らしく日本古来の庭園を象徴する「枯山水」をモチーフに砂紋がデザインされています。色の種類は4色あり、それぞれの色が春夏秋冬を表し、館内に四季折々の京都らしい風情を醸し出しています。会館にお越しの際には、ぜひ足元にも注目してみてください。

ニューホール建設工事 インフォメーション vol. 1

新しいホールの建設工事がスタートしました！

国立京都国際会館は、1966年に我が国初の国立の国際会議場として設立され、今年で開館50周年を迎えました。この間、京都議定書が採択された地球温暖化防止京都会議(COP3)や世界水フォーラムなど、数多くの重要な国際会議、学術会議の場として活用され、その成功を支えてきました。

しかしながら、近年では、催事の大型化・多様化が進み、当館もスペースが不足していたことから、より大規模な第4のホールとして、多目的展示施設の整備を目標に、オール京都で国に要望を重ねてきた結果、当面、ホール面積2,000㎡(2,500人規模)の新しい施設の建設が認められ、2018年6月の完成に向け、本年9月から建設工事がスタートしました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催は、日本の魅力を世界に発信できる絶好の機会です。新しいホールの完成にとともに、より多くの人々が京都に集い、様々な交流の機会が生まれることが期待できます。国際会館は、日本文化の真髄とも言うべ



完成イメージ▲

き京都ならではの「もてなし」や「しつらえ」の魅力を国内外に発信できる国際会議場として、これからも進化してまいります。

※今後も、このコーナーでは、ニューホール建設工事の様子をお知らせしていく予定です。

駐車場利用方法変更のお知らせ

新しいホールは駐車場内に建設されますので、工事期間中、駐車場の利用は事前に許可を受けた催事関係者のみとさせていただきます。

工事期間中はご利用の皆様、近隣の方々にご迷惑をお掛けいたしますが、何卒、ご理解・ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

開催予定イベント・会合一覧

2016年10月1日現在

催事名	日程	人数
科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)第13回年次総会	10月 2日～ 4日	1,200
日本宗教代表者会議発会式	10月 5日	90
第31回保団連医療研究フォーラム	10月 9日～ 10日	600
第23回C型肝炎及び関連ウイルスに関する国際会議	10月11日～ 15日	700
平成28年度京都府戦没者追悼式	10月13日	1,340
第26回国際原子力機関核融合エネルギー会議	10月17日～ 22日	1,200
第40回国際外科学会世界総会	10月23日～ 26日	3,000
第10回日本薬局学会学術総会	10月29日～ 30日	4,000
第70回日本臨床眼科学会総会	11月 3日～ 6日	8,000
第32回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11月10日～ 12日	3,000
第12回京都橘大学看護国際フォーラム	11月13日	250
第50回日本側彎症学会	11月17日～ 19日	800
第2回パンパシフィック プライマリーアンジオプラスティカンファランス	11月18日～ 19日	400
第24回日本鍼灸史学会学術大会	11月19日～ 20日	50
第62回(平成28年秋)宝松庵茶会	11月23日	600
日本放射線腫瘍学会第29回学術大会	11月25日～ 27日	3,000
第54回全日本包装技術研究大会 京都大会	11月29日～ 30日	450
国際心筋症・心不全学会2016	12月 2日～ 4日	300
心の健康フォーラム	12月 4日	1,700
第1回日本抗加齢協会学術フォーラム	12月 5日～ 6日	600
ATACカンファレンス2016 京都	12月 8日～ 11日	900
大学ICT推進協議会 2016年度年次大会	12月14日～ 16日	800
日本糖尿病療養指導士認定機構主催 第14回認定更新者用講習会	12月17日～ 18日	400

Pick up
イベント
(P6参照)

Pick up
イベント
(P6参照)

※参加者50名以上の会議



2016 Autumn号の表紙

成熟

2000年代を迎え、大規模な国際会議を数多く開催すると同時に、施設・設備の増改築によってハード面での充実を図ってきました。開館から50年の実績を積み重ね、まさに“成熟”した現在の姿をイメージしています。

Kyoto International Conference Center

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館
住所 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
TEL 075(705)1218
FAX 075(705)1100
E-mail com@icckyo.or.jp
URL http://www.icckyo.or.jp/

国立京都国際会館

検索

©All right reserved - Kyoto International Conference Center